鳥城会報

近づく総会　膨らむ期待

多彩な企画に幹事奔走

今年もいよいよ総会が近づきました。平成六年度総会・懇親会は十一月十一日夕、東京・半蔵門会館で開かれますが、こんどは少々、様子が違うようです。企画・運営を担当する西高九回生には多くの会社幹部をはじめ、弁護士あり、イラストレーターあり、漫画家ありと"多士済々"で、総会を盛り上げるためなにかとチエをしぼってくれているからです。活気に溢れた総会になるはずです。ぜひとも一人でも多くの会員が参加されますよう期待いたします。

このところ毎年の総会には八十人前後の会員の方々が参加されています。しかし、懇親会が立食形式のパーティーのみのためか、懇談の輪が広がる程度で、いささか精気に欠ける面がありました。一中・西高の結合・連携が進む中で、西高卒業生、なかでも女性会員の参加が少ないのも残念でした。

今年度の総会を担当することになった西高九回代表の清水紀代志君（鳥城会副会長）らは、昨年の総会の席上、「われわれの手でもっと楽しい総会にしてみせます」と決意を表明し、総力を結集してきました。

さて、どんな趣向がこらされるのか、まだ詳しくは知らされていませんが、漏れてくる情報では、ビンゴによる福引、ノド自慢のカラオケ、県東京物産観光センターによる県産品の即売など多彩な企画が準備されているようです。

もっとも、まったく予告なしというわけにはまいりませんので、西高九回生代表幹事の皆さんに別記のように構想の一端を明かして頂きました。

縦の連携が肝要

一中・西高　会長　渡辺誠教

鳥城会はまず旧鳥取一中の同窓会として発足した。同期の木村耕造君が西高の校長で、その協力に負うところが大きかった。

それから約十年、当初からの最大の懸案だった鳥取西高卒業生の加入が実現し、鳥城会の若返り、活動の活性化、会員の拡充などの努力が続いて、また十年が過ぎた。

余談で恐縮だが、私はこの六月、旧制高校（山口）の同窓会会長に選出された。結構忙しい。昨年完成した旧制高校記念館の展観行事に協力したり、今年で十七回を迎える全国旧制高校大会で講演を頼まれたり、近く日本家歌祭への参加が予定されている。次から次へと忙しいのは何故か。理由は簡単である。

各校同窓会とも高齢化が進む一方、新規加入は全くないから、年毎に状況は悪化し、やがては絶滅への道を辿らざるを得ない。それを知っていればこそ、それぞれが一校単位の垣根に閉じこもることなく、お互いに協力し、親睦を深め、共同してより意義深い活動を拡げ、みんな一緒に余生を楽しみたいと願ってのことである。

私はそういう状況を見るにつけ、つくづくわが鳥城会は恵まれていると思う。会員の高齢化は進むだろう。他界される方も出るだろう。だが、毎年連綿として新しい若人達が西高の門をくぐる。西高の卒業生もふえてくる。社会で重要な役割を担う有為の人材たちである。旧制高校の場合はこういう条件を欠くから、同窓会活動の活性化は横への連携を拡げる動きとなる。これに対し、私どもの鳥城会は、専ら縦の連携を拡げ深めること一本で、動いて来ている。西高の諸君は一中が築いた伝統を正当に評価し、文武並進を校是の如く扱っている。同様に一中側は、自分達の母校は西高以外にはないと考えて既に久しい。縦の連携を願う上で、これ以上の財産はない。

みんなで力を合わせて、鳥城会を守りましょう。

（横綱審議会委員長・元朝日新聞社社長）

景品も当たるよ！

――色紙・似顔絵描きは有料でお願い――

十一月十一日の鳥城会総会を担当することになった我々西高九回生は、なんとか総会への出席者を増やし、かつまた皆様に喜んで頂けるパーティーにしたいものと、あちこちに声をかけて、いろんなグッズを集め、パーティーの景品にすることを考えました。

一、ソニー副社長森尾稔君提供のペーパーラジオ
一、ナイガイ株式会社寺谷敏克氏提供のシャツ類
一、ステンドグラス作家佐藤久栄さん提供のステンドグラス作品
一、茂田宏子さん提供の油絵
一、小学館提供の各種グッズ
一、日本冷蔵食品営業部長川本祐三君提供のグルメ食品
一、敷島紡績部長横谷元昭君提供のシャツ類
一、JA県農とっとり提供の干し椎茸三十袋
一、イラストレーター福田典高君、漫画家篠田英男君提供の色紙と会場での似顔絵描き（この項のみ、会の財政強化に資するため有料となります）

その他、まだ、いろいろと品物を集めるために交渉中です。集めた品物は、ビンゴ・ゲームを通して皆様の手に渡るようにしようかと思っています。ぜひ幸運をつかんで下さい！

では、十一月十一日午後六時から、大いに盛り上がりましょう！

（篠田記）

東京鳥取県人会
一足早く総会開く

東京鳥取県人会の総会と懇親の夕べが九月十三日夕方、西尾邑次県知事や県選出の国会議員らを来賓に迎えて、目黒・八芳園で開かれた。会員やその家族など二百七十人が参加し、盛大だった。

松田新一会長（東郷町出身・倉吉中学卒）は県人会の一層の活性化と会員同士のコミュニケーションの強化を訴え、西尾知事は県の近況と今後の発展について抱負を述べた。会場のマルチスクリーンには、鳥取の素晴らしい景観や二十一世紀に向けて羽ばたく環境整備の模様が映し出されていた。

総会に続いて、佐々木定道名誉会長（鳥城会顧問）の音頭で乾杯、懇親会に移ったが、ノド自慢あり、元宝塚スター槙さやかさんの"ファンタジーレビューショー"。ありと、まことに華やかだった。

鳥城会からも多数の会員が参加し、年一回の出会いを楽しんだ。会のシメに全員で合唱した「ふるさと」の余韻を楽しみながら、今年は格別においしい二十世紀梨や空クジなしの福引の景品を土産に家路についた。

（副会長・杉村公美）

レクリエーション活動報告

初開催「グルメの会」好評

鳥城会のレクリエーション活動は会員の趣味の集まりというだけでなく、会員相互のコミュニケーションに尽くす役割が期待されている。以前から囲碁と麻雀の会が開かれ、その実をあげてきたが、新しく「グルメの会」も発足した。このほか、東京近郊の史跡めぐり、ゴルフ、絵画・写真の鑑賞、講演会、カラオケの集いなどの希望が多い。可能なものから、いずれ実現したいと考えている。以下に活動の概要を報告する。（副会長・レクリエーション担当　杉村　公美）

囲碁の会

本年度は新たに二十人近い新会員を迎え、登録会員数は六十人を超えた。

恒例の囲碁大会は七月九日、市ヶ谷・日本棋院で開かれ、昨年に倍する二十六人が参加し、終日、棋院大ホールで熱戦が繰り広げられた。

その結果、優勝者はA組（二段以上）が浅尾弘五段（一中61回）、B組（初段以下）が大西一郎（西高4回）と決まり、それぞれ優勝カップ、優勝トロフィーを手中にした。その他の入賞者、参加者にも多数の協賛賞品が授与され、次回の再会を約して散会した。

なお、鴨水会（倉吉中学・倉吉東高同窓会）との第四回定期親善対抗戦も近く開催の運びで、準備が進められている。（幹事　田村　大八・西高4回）

麻雀の会

昨年十一月二日、八重洲口「おおさか」で林田達郎幹事（西高5回）のお世話で開かれ、四卓を囲んだ。三浦三郎君（西高5回）が優勝した。

停滞気味だった麻雀も復興のきざしがあらわれてきたようだが、次回の企画がなかなか進まないのもリストラのあおりだろうか。なんとか早く開きたいと考えている。（杉村記）

グルメの会

横山豊君（一中61期）のお世話で、同君が社長を務める東京青山の高級フランス料理店「オーブリオン」で三月十二日正午すぎから開かれた。

初めての試みとあって心配されたが、渡辺会長夫妻をはじめ、夫婦ずれ、家族ずれの会員が目立ち、五十席を超える部屋が満杯となり、申込みを断るほどの盛況だった。

ヨーロッパ風の豪華な雰囲気の中で、シェフ自慢のリオン料理を味わい、ワインを傾けながらの歓談が続いた。フルコースを特別サービス価格で提供していただいたこともあってか、評価は上々で、参加者からは「もう一度やってほしい」といった声も出ていた。

「第二回グルメの会」は目下思案中とか、「どうぞご期待」である。（中野記）

政務次官会員が誕生

西高5回生の吉田達男君

鳥城会会員の吉田達男参院議員（岩美町出身・西高5回）＝似顔絵＝が村山政権の農林水産政務次官に就任した。細川連立政権でもウルグアイ・ラウンド農業合意に反発して辞任した同僚に代わって政務次官に就いており、今度は二度目の本格的な起用だ。難しい局面を迎えている日本農業の舵取り役としての活躍が期待されている。

吉田君は五年前、鳥取県議から参院議員選挙（鳥取地方区）に挑戦して見事に初当選。それからは持ち前の行動力で、鳥取との間を"金帰月来"で往復し、郷里の発展に尽くしてきた。

東京では西高5回同期生を中心に「吉田達男君を囲む会」をつくり、来年の改選にも勝利できるよう支援を続けている。（世話人　林田　達郎）

期別の活動を拝見　その③

前号に引き続き、卒業年次別の同窓会の動きを紹介します。

一中60回　総会の後に同期会開く

私ども鳥取一中六〇回生は、太平洋戦争の始まった翌年の昭和十七年四月に入学し、終戦後の昭和二十二年三月に卒業したわけであります。戦局が急迫するにつれて、三年生の時、昭和十九年夏からのことですが、いわゆる学徒動員によって鳥取機関区、同保線区、興和重工業などで働くために学舎を離れることになり、また一部の人は陸、海軍の学校へ行きました。そして敗戦を迎え、復学したのは昭和二十年九月半ばのことでした。

敗戦のショックは、多感な少年期であっただけに極めて大きなものがあり、食糧事情も悪く、今日では到底考えられない程で、育ち盛りの我々は耐乏生活を余儀なくされました。

もう一つ、変則的に翌昭和二十一年三月に四年生で卒業して行った者八十六名が第五九回卒で、残りの百三十七名は昭和二十二年三月卒で第六〇回生というように別れてしまいました。もっとも、いまでは仲良く一緒に同窓会を開いています。

私どもは現在六十五歳で既に年金を受ける年齢に達しています。従って給与生活者は定年になっているのが普通でありますが、平成五年十月発行の鳥城会会員名簿でもお判りのように、現に多くの同期生は在職して頑張っております。

同期会は不定期的ながらも、三木龍夫氏が幹事役でやっています。最近では、鳥城会総会の後に二次会の形で開き、杯を重ねて懇親の実をあげているところであります。集まりも良く、好首尾に存じています。（文責　岡垣　宏和）

西高16回　女性尊重が盛会の秘訣

私たちの関東同窓会には東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城に現在八十四名（男五十三名、女三十一名）がいます。

昭和五十七年に初めて開催されましたが、それ後三年の空白があり、その間、私はただひたすらに名簿を正確に管理することに努力しました。

なにせ、その頃の私たちの同級生は転勤や転居の多い世代でしたので、名簿を正確に保つのは結構面倒でした。こちらでキャッチした転勤、転居の情報を鳥取の学年同窓会幹事に知らせることにより、逆に東京近郊への転入移動者の情報をもらったり、関東在住の同窓生全員に年賀状を送ったりしながら、名簿を常に新鮮な状態に保つよう心掛けていました。

そんな時、昭和六十年の盆に、鳥西卒業二十周年記念同窓会が鳥取で開かれ、全クラスの同級生が一堂に会し、再会を喜び合いました。席上、東京でも同窓会をやりたいという希望が多く、それ以来、年に一、二回は必ず集まっています。

私たちの同窓会は会長も役員も決めておらず、義務的なものは一切ありません。にもかかわらず、同窓会にはいつも三十数名の参加者があり、七割もの人がなんと三次会まで付き合ってくれています。午後三時から十一時頃まで、それこそ宴酣（えんたけなわ）状態が続くのです。

毎年春先とか、秋深くなると、女性有志が相談し、男性有志に働きかけて開催の準備をしてくれていますので、女性参加者も多く、同窓会は毎回盛り上がります。同窓会が年に一度ならず二度も開かれ、開催のたびに多数の参加者に恵まれ、いつも活気に溢れて盛り上がるのは、すべて女性のお陰だと私は総括しています。

この種の催事は、女性が主導権を持って女性が参加し易い形を企画することが成功の秘訣だと思っています。（本田　清太郎）

編集後記

猛暑も去ってホッとしていると、総会を前に、にわかに会報第3号を出すことになりました▼記事あっての会報です。急な原稿依頼に応えてくださった皆様に感謝あるのみです。拙速の編集ながら、なんとかできあがってホッとしています▼西高を中心とする若い会員の活躍が目立ちます。鳥城会の将来にとって、なんとも頼もしい限りです。（中野記）

◇発行所
鳥城会事務局
☎03・3442・2221
◇発行責任者
中野　純（副会長）
◇編集委員会
川口　義男（58回）
横山　豊（61回）
林田　達郎（西5回）
三浦　三郎（事務局長）
三角　幸子（西15回）